

近況挨拶



病院長
新家 眞



2020年庚子(カノエ・ネ)年も半分が過ぎ、もう7月となりました。2020年の新年には庚子の意味に「変化が生まれ、新しい生命が萌し始める状態で新しい事にチャレンジするのに適した年」というものがあるというお話をしました。その当時は全く想像もできなかった事でしたが、今年の前半は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行(Pandemic)に振り回され続け、まだまだそれも序の口でやがて来る第二波、第三波に対して備えなければいけないという、COVID-19を除いたら何も残らないような庚子年の前半でした。一体60年前、120年前の庚子年はどうだったのだろうと、Internetで検索してみますと、十干十二支の本家の中国では庚子年は厄災の年、即ち厄歳という思想があるらしく、事実1840年は阿片戦争(英国による中国(清朝)侵略)、1900年は義和団の変(清朝の農民が欧米による植民地化に反対して蜂起したが、結局当時のヨーロッパ列強を中心とする軍隊の介入と更なる清朝の弱体化を招いた。)、1960年の歴史的な大飢饉、そして2020年の武漢に端を発するCOVID-19の大流行と、庚子年は中国では我々も学校で習って知っているような歴史的な厄災の年だったようです。一方日本を見てみますと、1840年(天保11年)、1900年(明治33年)、1960年(昭和35年)ともそんなに歴史や教科書に残るような厄災には見舞われてはいなかったようで、2020年(令和2年)の新型コロナウイルス禍が最悪のようですが、中国での庚子の年の魔のジンクスが、日本では通用しないというエビデンスが示せるようになれば良いと思っています。

当院も全力をあげてCOVID-19の問題に対応して参りました。区内での受診者が増加し始めた2月21日には帰国者・接触者外来の仮設テント2棟を設置し、同時に、COVID-19が疑われる患者さんの入院に際しては、徹底したゾーニングを行う等対応してきました。

しかしながら、3月末から4月にかけての東京都下のCOVID-19大流行に対しては、これまで行っていた一般病棟の一部をゾーニングするという間に合わせの対策では限界があると判断し、新型コロナ専用の病棟を立ち上げることを決定致しました。ナースステーションなどオープンエリアで人の往来が確認しやすい現代の建物では、感染症の隔離には適しておらず、建物の中で唯一物理的な隔離が可能な精神科病棟に専用病棟をつくるために東京都に病棟許可申請を行い、4月に入り申請が認められました。

ご入院されていた精神科(児童思春期)の患者さんには一般病棟に移動してもらい、新型コロナ専用病棟には、新たに人工呼吸器に必要な設備を増設し、一般患者との動線を分けるために専用の入口や、通路整備を行い、専用の医療職員を多く配置し、4月23日よ

り正式に新型コロナ専用病棟として稼働致しました。この一連の大工事により、院内感染のリスクが低減できたと同時に、自信をもって対外的にも新型コロナウイルス感染症に対応していますと言えるようになったと思います。

一方所謂COVID-19のPCR検査や疑いの患者の診察を行っていた発熱外来ですが、梅雨時になると仮設テントでは雨の足場の問題や空調等、設備的に不十分となります。そこで5月14日に新型コロナ病棟の一画に発熱外来を移し猛暑に耐えられる設備を確保しました。これでCOVID-19に対応する設備をまとめることができ、対策を平滑化することが出来ました。これら一連の新型コロナウイルス対策を、院内全職員の理解と協力のもとに行えたという事は、大きな成果だったと思います。又病棟提供を快諾していただいた精神科スタッフへの感謝の念は忘れてはいけないと思います。この場を借りまして病院を代表して、心より関係各位にお礼を申し上げます。

さて現時点(6月5日)では、所謂COVID-19大流行の第一波が終わり、これからの予想される第二波、第三波に備えると同時に、今まで新型コロナウイルス感染対策に追われるあまり、どうしても手薄とならざるを得なかった通常診療も、できる限り早期に回復する事が当院の重要な課題となります。今年の後半は、この課題に全力で取り組むと同時に、COVID-19大流行の一刻も早い鎮静化を心より願って、緑のひろば7月号の近況挨拶したいと思います。

櫛会からのお知らせ

「糖尿病教室」と糖尿病患者の会「櫛会例会」開催のお知らせ

糖尿病教室と櫛会例会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大によって、3月開催を見送りましたが、緊急事態宣言解除に伴い、次回7月は開催を予定しています。今回は、従来のプログラムを変更して糖尿病教室と櫛会例会を併せて12:30に終了する予定であり、参加費は徴収しませんが、昼食は提供できません事、ご了承下さい。

日時:7月16日(木) (今回のみ会費無料)

会場:関東中央病院 2階講堂

・糖尿病教室:10:00~11:30

糖尿病・内分泌内科の水野部長が、日本糖尿病協会発行の月刊誌「さかえ」から重要テーマやトピックスを解説します。

・櫛会例会:11:30~12:30

前年度および今年度の活動報告等(総会)

*昼食のご用意はありません。

*低血糖予防のブドウ糖などは各自ご用意下さい。

*感染予防のため、ご家庭で体温を測定し、37.4℃以上の場合は参加をご遠慮下さい。

*倦怠感、咽頭痛、咳、痰、味覚障害、嗅覚障害などの症状がある場合も参加をご遠慮下さい。

*当日は、マスク着用を必須とし、手指消毒の上、離れて着席頂きます。

*公的な外出自粛規制が発令されましたら、開催を中止し、同時に当院website(ホームページ)でお知らせいたします。

「櫛会」に入会希望の方は、例会当日に会場でお申込みいただくか、ご自身の連絡先住所・電話番号を記載の上、葉書で下記にお申込みください。

〒158-8531 東京都世田谷区上用賀6-25-1 関東中央病院 櫛会 宛て